

清水遺跡 3 地区

| | |
|-------|--|
| 遺跡番号 | 平成11年度新規登録 |
| 調査回数 | 第1次 |
| 所在地 | 山形県村山市大字名取字清水北 |
| 北緯・東経 | 38度31分10秒・140度22分23秒 |
| 調査委託者 | 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所 |
| 起因事業 | 東北中央道（東根～尾花沢間） |
| 調査面積 | 5,700 m ² |
| 受託期間 | 平成23年4月1日～平成24年3月31日 |
| 現地調査 | 平成23年5月9日～12月2日 |
| 調査担当者 | 氏家信行（現場責任者）・庄司昭一・渡部裕司・濱松優介・齋藤和樹 |
| 調査協力 | 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山東根土地改良区・村山市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所 |
| 遺跡種別 | 集落跡・古墳・城館跡 |
| 時代 | 縄文時代・奈良時代・平安時代 |
| 遺構 | おとしあな 陥穴・竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴・井戸跡 |
| 遺物 | 縄文土器・石器・土師器・須恵器・黒色土器・陶磁器・木製品（文化財認定箱数：35箱） |

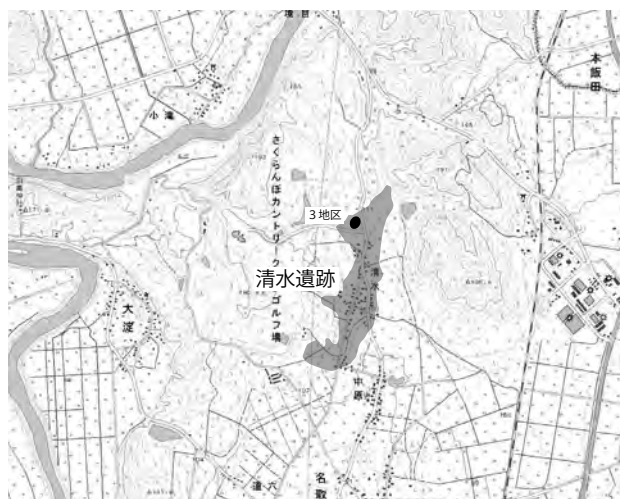


図1 遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

今回の調査は、昨年度に引き続き東北中央道（東根～尾花沢間）の建設工事に伴って行った。昨年「清水遺跡(2)」として調査を行ったB区とその北側を3地区として調査を実施した。

調査の工程は、重機で表土を除去した後、人力で土を削り（面整理作業）、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの遺構を確認し、その後、遺構の掘り下げと併行して写真撮影と図面作成などの記録作業を進めた。

遺構と遺物

縄文時代では陥穴と石器を集めていた様相を示す土坑があり、平安時代では掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、土坑、溝跡などが見つかった。

縄文時代の陥穴SK1154は調査区の南東隅に位置し、昨年調査したB区で確認された3基のおとしあなおとしあなの陥穴に続くものと考えられる。また、石器を集めていた土坑からは原石を打ち欠いた剥片はくへんが150点程出土した。

平安時代の遺構は竪穴住居跡8棟確認された。出土遺物から、北側にあるST1077は奈良時代、他は平安時代と考えられる。規模は、ST1077が6.0×5.5mを測り、その他の住居は約3.0～3.5m四方の大きさである。確認面からの深さは、浅いもので15cm、深いものでは40cmを測る。ST1053にはカマドの付け換えが見られた。また、ST1140のカマドは近年の抜根により破壊されていたが、多くの遺物が出土した。

掘立柱建物跡は18棟確認され、その規模と数は、2間×2間の建物が最も多く7棟、2間×3間の建物は4棟、3間×3間、1間×2間、2間×2間の中央にも柱をもつ総柱の建物は各2棟、1間×1間の建物

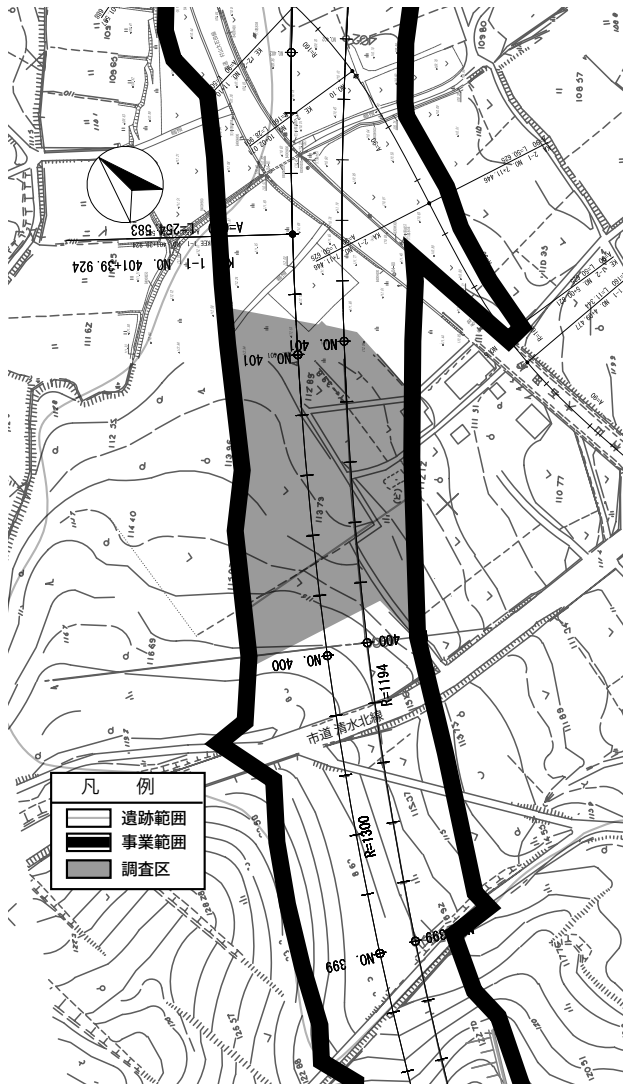


図2 調査区概要図 (1 : 2,500)

は1棟である。そのうち9棟が調査区中央の西側に集中している。この集中区域の建物は、主軸が南北方向で、柱痕跡に比較して柱穴の掘り方が大きいという特徴がみられ、中には1mを超える掘り方の建物もある。この建物群は、その規模から倉庫跡と考えられる。

井戸跡は、開口部が直径1.7mで深さは1.5mを測るSE1051が確認された。底から木製品が出土している。

土坑は直径2mを測る大型のものが7基検出され、SK1025からは多くの土器片が出土し、SK1048には915年に噴火した十和田火山のものと思われる火山灰が堆積していた。また、調査区内で屈曲する溝跡SD1054・1061や東西に横断するSD1029溝跡は建物群などを囲む区画溝と考えられる。

遺物は、縄文時代の土器、石鏃、石筥などの石器や凹石、装飾品と思われる孔が開けられた石製品と奈良・平安時代の素焼きの土器で赤褐色の土師器と窯で焼かれた



写真1 面整理作業 (南から)



写真2 遺構掘り下げ作業 (北から)

灰色の須恵器が出土した。土師器や須恵器には、蓋や坏、高台付坏、甕などが多く見られる。坏の底部の切り離し痕は回転糸切りが多数を占め、中には、黒色処理がなされた黒色土器や文字が書かれた墨書土器などもある。また、金属を精錬する際に炉へ風を送り込むフイゴ(送風機)の羽口も出土している。

まとめ

今回の調査で、約4,500～3,300年前の縄文時代の狩り場跡と9世紀を中心とする平安時代の郡衙ぐんがに関すると思われる溝に囲まれた施設跡が検出された。

平安時代の施設と思われる建物の性格は、規模が大きいもので3間×3間であることから倉庫群の可能性が高い。また、住居や建物間で大きな時期差は認められないことから、短期間に建て替えたと思われる。

名取地区には村山郡建郡時期の水運に関連する役所であると考えられる西原C遺跡が存在することなどから関係が窺われる。今後、各住居跡や建物跡などの詳細な時期、構成、変遷へんせんを検討していく。



写真3 調査区全景（北から）

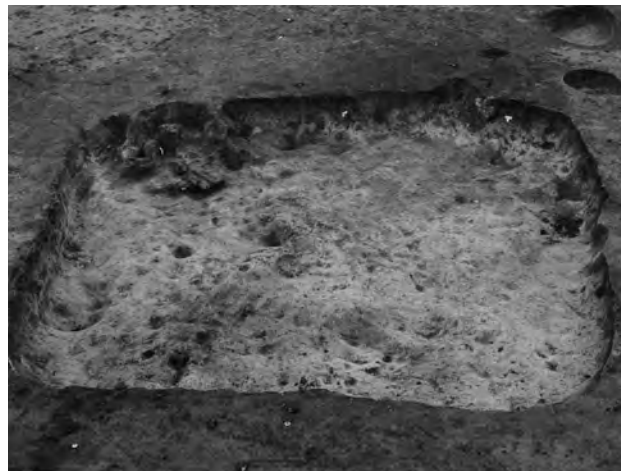


写真4 カマドが作り変えられた住居跡（北から）

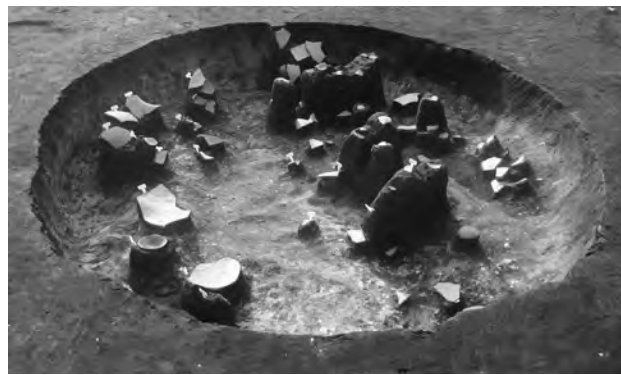


写真5 多くの土器が出土した大型の土坑（東から）

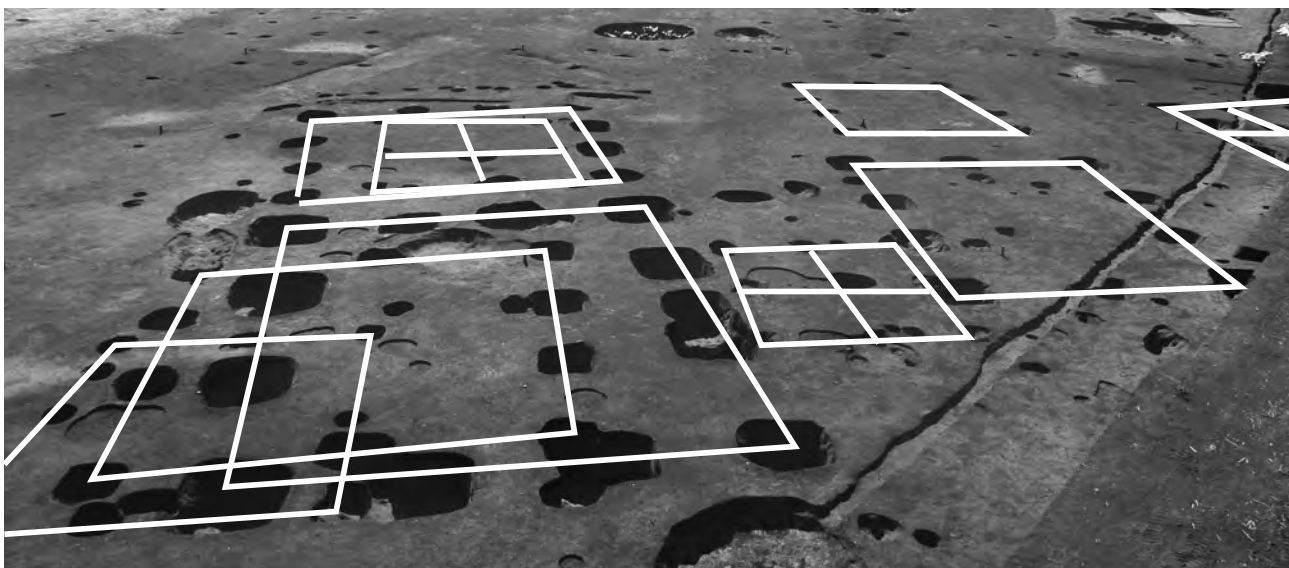


写真6 掘立柱建物跡群（北から）



写真7 石器・石製品



写真8 縄文土器



写真9 墨書土器

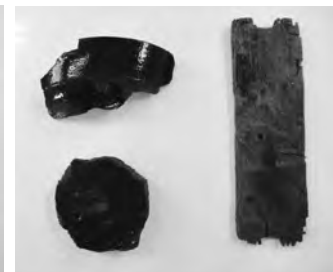


写真10 木製品